

1 主題名 いつでも親切に 2-(2) 思いやり・親切

2 資料名 レジにて (「6年の道徳」 文溪堂)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

指導内容2-(1)は、「だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。」ことを主な内容としている。

相手の立場を「思い」「遣る」心が行為となって表れるのが親切である。幼い子や高齢者等弱い立場にある人々への親切心は、比較的素直に表出できるが、「だれに対しても」となると即実践という場面ばかりではなくなるのが現実である。特に自分に不愉快な思いを味わわせた相手や、自分の親切心が伝わらない相手に対しては、親切な行為の実践に迷いを覚えるのが人の常である。

そこで、損得を先に思い浮かべ、親切にできるかどうか打算が働く人間の弱さを認めながらも、それでも相手の立場に立って親切にしようとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態 (39人)

最上級生として校内における集団生活のリーダーの体験をもつようになり、1年生などの下級生に優しく親切に接する場が増えた。親切にすることはよいことだという規範意識は、高学年になればほとんどの子が持っている。しかし、いざ実践となると、打算や自己防衛が働き、素直に行動に移せない子供も少なくない。親切を受ける側の態度によっても、自分の行為がよかったのかと迷う場面もあり、子供の親切に対する行為の幅を狭めてしまう要因ともなっている。

日常生活の中では、相手によって自分の親切心の伝え方を変えていく柔軟性も必要となってくるが、この時期の子供たちには、もし自分が同じ立場になったら相手に対してどうしてほしいかを問い掛けることにより、親切な行為の大切さをしっかりと捉えさせ、ねらいとする価値に迫りたい。

(3) 資料について

本資料は、ねらいとする価値を焦点化し、マンガを使って子供の視覚に訴えかけるよう1コマ1コマに配慮し作成された道徳授業用のマンガ資料である。

親切に対してより高い価値観をもって実践することができる具体的場面を意図して設定してある。親切を実践する場面を想定したとき、困難が伴う場面、葛藤する場面(自分に不快な思いを味わわせた人にまで親切にできるか)を問う場面、自分の行った親切に対して見返りを期待しないでいられるか(相手は礼も言わずに立ち去っていく)を問う場面である。資料はたった12コマだが、この資料から発展して、「もし、店員が親切な行為をほめてくれなかったとしたら、それでも相手の立場に立って思いやりの心を持ち親切にできるだろうか。」と問いかけ、親切心に対する揺さぶりをかけることもできる。

マンガの特長を生かし、変化する状況や少女や青年の表情から、教師の問いかけ対応した子供自身の感じ方、考え方を引き出し、ねらいとする価値についての話し合いを深めていきたい。

(4) 他教科・他領域や日常指導などとの関連

日常生活の中で、親切にされてうれしかった場面を多く味わうことのできる児童は、相手に対しても自然体で親切にしようとする態度が育っていくと思われる。帰りの会で行っている「一日の振り返り」で、受けた親切、できた親切についての互いの発表を聞き合う中で、自分もそうありたいと思える気持ちを高めていきたい。

他教科では、グループ学習を取り入れ、誰に対しても思いやりの心をもって接し活動できるような経験の場を設定する。そこで、相互に教え合ったり、認め合ったりする活動を通して相手の立場に立って親切にすることの大切さに気付くようにしたい。更に、親切にされてうれしかったときには感謝の気持ちを伝え、望ましい人間関係づくりを深めるようにしたい。

4 本時の学習

(1) ねらい

だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする心情を育てる。

(2) 展開

学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点と評価※ 研究主題達成のための手立て☆
<p>1 親切にされてうれしかったことについて発表し合う。</p> <p>○ 親切にされてうれしかったことはあるか。</p> <p>2 資料「レジにて」を読んで話し合う。</p> <p>○ レジに割り込まれたときの私の気持ちはどんなだったか。</p> <p>◎ 男の人が落とし物をしたことに気付いたとき、私はどんなことを考えたか。</p> <p>○ 礼も言わず立ち去る男の人を見て、私はどんな気持ちだったか。</p> <p>○ お店の人の言葉掛けがあった後、私はどんな気持ちになったか。</p> <p>3 今までの自分の生活を振り返り話し合う。</p> <p>○ 今までの自分は、いつでもどこでもだれにでも相手を思いやり親切にしていたらどうか。</p> <p>4 授業を通して分かったことを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具合が悪いとき優しく声を掛けてくれた。 ・ 友達が分からない問題を親切に教えてくれた。 ・ 私が先に並んでいるのに失礼な人だ。 ・ 何て勝手な人なんだろう。 ・ 腹が立って仕方がない。 ・ さっきの仕返しに教えてなんかやるものか。 ・ 教えたい気もするけれど教えたくない気もある。 ・ さっきのことを謝ったら教えてやってもいい。 ・ たとえ嫌な相手でも教えてあげよう。 ・ お礼の一言ぐらいあってもいいのに。 ・ せっかく教えてあげたのに損したな。 ・ 親切にできてよかった。 ・ ちゃんと見てくれている人がいてうれしかった。 ・ 自分のとった行動はあれでよかったのだ。 ・ これからも進んで親切にできたらいいな。 ・ 親切にしたいと思うが、なかなか行動に移すことはできなかった。 ・ 相手が困るだろうと思って親切にできた。 	<p>○ 親切にされたときの体験を発表し合い、温かな雰囲気の中でねらいとする価値の方向付けをする。</p> <p>○ 各自で一度通読した後、全体で読む。</p> <p>○ 自分に嫌な思いを味わわせた相手、親切にはしたくない相手であることを押さえておく。</p> <p>○ 自分にとって不愉快な相手でも親切にできるか迷う私の心情に共感させ、ねらいとする多様な価値観を引き出す。</p> <p>☆ 私の心情を個人→ペア→全体の順で広げ、一人一人の意見が生かせるようにする。</p> <p>○ 親切に対する見返りがなくても、果たして親切にできたかどうかを問いながら、ねらいとする価値に迫りたい。</p> <p>☆ 私の心情を、意図的指名による役割演技で表現し、話合いが深まるようにする。</p> <p>○ 親切にしたことの喜びを味わわせ、進んで親切にしようとする意欲を高める。</p> <p>○ だれも自分の親切な行為を認めてくれなかったとき、それでも親切にできるかを問い、その行為を支える心をしっかり捉えさせたい。</p> <p>○ 親切な行為の原動力は、困っている相手への思いやりであることに気付かせ、自己を振り返らせたい。</p> <p>※ だれに対しても思いやりの心をもって、相手の立場となって親切にすることができたか。</p> <p>☆ 書く活動を通して、何に気付いたか、何が分かったのかを自身で確認する。</p>